

# 令和4年度 第1回オンラインセミナー 開催報告

**テーマ** コロナ対応と通常業務のはざままで～保健師として悩んだこと・大切にしたこと～

**開催年月日** 2023年2月19日(日)13:30～16:00

## プログラム

### ① 話題提供 (→「[会員専用ページ](#)」で動画をご覧ください)

- 東京都新宿区から 新宿区健康部 四谷保健センター 保健サービス係長 小川智詠子  
新宿区保健所 衛生課長・統括保健師 松浦美紀
- 埼玉県寄居町から 寄居町 健康づくり課新型コロナ対策班班長 主幹 阿部大輔  
埼玉県 保健医療部疾病対策課 主査 井桁智子

### ② 全体での意見交換

- ・有事に平時の活動をいかに守っていけるか、受援側の保健所が「コロナ以外の事業をやりたい」と言うことは困難だった。そこは地震災害と同じだった。一方で、地震災害とは異なり、波と風(なぎ)を何度も繰り返し、先の見通しがつかないまま長期戦になったところに、コロナ特有の難しさがあった。
- ・コロナでなければ会えない人に会えた。どのサービスからも漏れている人がおり、インフォーマルな社会資源をフル活用するなど、不十分だったが「つなぐ」ことを意識した。きっかけは感染症だが、そこにとどまらず家族全体や生活をみるのは保健師だからこそ。
- ・あきらめないことが大事。できなかったことに目が行きがちだが、悩んだことに価値がある。
- ・コロナで中断してしまった活動について「やらなくても大丈夫じゃない？」という若い世代もいる。「やらなくちゃ」と思わせるように、若い世代を巻き込みながら新たに活動をつくっていくことが課題。
- ・ハイリスク者への支援が優先されていく中、保健師としての予防的支援、ポピュレーションアプローチをどう守っていくかが課題。
- ・保健センターはルーチン業務が多かったが、コロナによって考えることを迫られ、見直す機会となった。コロナ対応のためにできなくなった部分をどうカバーしていくか、皆で話し合ってきた。
- ・コロナ禍でオンラインなど普及啓発の幅が広がったので、今後も活用していきたい。 等

**参加者(会員限定)** 24名

**参加者アンケートの結果** 回答者15名

#### 1)回答者の属性

- ・活動領域 「都道府県」46.7%、「市区町村」13.3%、「大学・教育等」20.0%、「その他」20.0%
- ・居住・活動地域 「関東・甲信越」60.0%、「北海道・東北」20.0%、「九州・沖縄」13.3%、「中部・北陸」6.7%
- ・保健師経験年数 「20年以上」53.3%、「15～20年未満」20.0%、「10～15年未満」6.7%、「5～10年未満」20.0%

2)話題提供に対する感想 「とても良かった」80.0%、「よかった」20.0%

3)全体討議に対する感想 「とても良かった」42.9%、「よかった」57.1%

#### 4)セミナー全体に対する感想(一部抜粋)

- ・いつもの保健師活動の大切さを、あらためて感じた。連携、地域の課題や強みを知っているからこそ、健康危機管理での対策が出来るのだと、発表を聞いて思った。保健師活動をどのようにカバーして実施するか、という点も地域を把握し対象者を理解しているからこそ、その地域の状況に合わせてカバーする方法を考え、行えるのだと思う。
- ・これまで、対策に追われ、保健師の存在意義ということの思い及ばずにいたが、「今までの仕事に意味がなかったということ？」と話していた後輩の発言を思い出し、ちゃんとコミュニケーションをとっていきたくて思った。できなかったことを自省するのではなく感じていることに意味を見出していき、カづけられる一言だった。
- ・無意識にというか、組織内サイバイバルのためか、自由な発言が抑圧され、人の尊厳が守られない組織風土を育み、これが様々なストレスの根底に蔓延し、精神の不調を孕む可能性があり、これがまた、感染症とは異なる危機を生むこと学んだ。この気づきを大切に、これを繰り返さないよう心して、次のパンデミックを迎えたいと思った。